

# 梅丘地区防災計画

[令和3年修正]

梅丘地区

**【梅丘地区防災計画作成団体】****(順不同)**

梅丘1丁目町会	梅丘2・3丁目町会
豪徳寺1丁目町会	豪徳寺一丁目山下自治会
豪徳寺二丁目町会	代田自治会
日赤奉仕団梅丘分団	梅丘地区民生委員・児童委員協議会
梅丘地区社会福祉協議会	青少年梅丘地区委員会
梅丘商店街振興組合	豪徳寺商店街振興組合
山下商店街振興組合	世田谷消防団第5分団
世田谷中学校PTA	山崎小学校PTA
城山小学校PTA	花見堂小学校PTA
北沢地域社会福祉協議会梅丘地区事務局	梅丘あんしんすこやかセンター

## 目次

- 1 梅丘地区の特性 .....梅丘-1(-188-)
  - (1) 自然特性 .....梅丘-1(-188-)
  - (2) 社会特性 .....梅丘-2(-189-)
  - (3) 地域危険度 .....梅丘-4(-191-)
  - (4) 被害想定 .....梅丘-5(-192-)
  - (5) 防災資源一覧 .....梅丘-8(-195-)
  - (6) 防災資源マップ .....梅丘-9(-196-)
  
- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ .....梅丘-10(-197-)
  
- 3 梅丘地区の課題と取り組み .....梅丘-18(-205-)
  - (1) 情報収集・伝達 .....梅丘-18(-205-)
  - (2) 安否確認 .....梅丘-19(-206-)
  - (3) 初期消火 .....梅丘-20(-207-)
  - (4) 避難行動 .....梅丘-21(-208-)
  - (5) 避難生活 .....梅丘-22(-209-)
  - (6) その他 .....梅丘-24(-211-)

# 1. 梅丘地区の特性

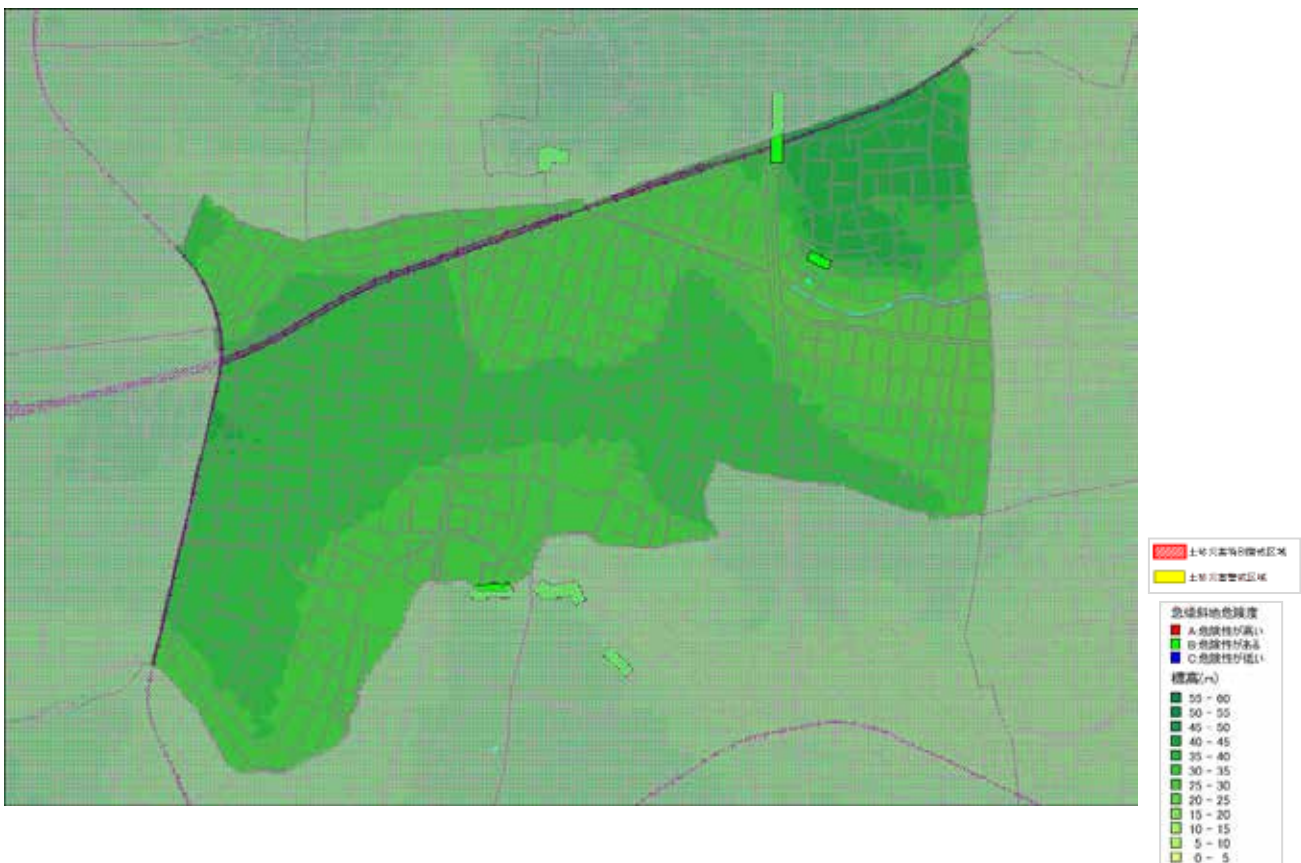
## (1)自然特性

面積	1.60 Km <sup>2</sup>	最高標高	43.5 m	最低標高	27.2 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

### 位置



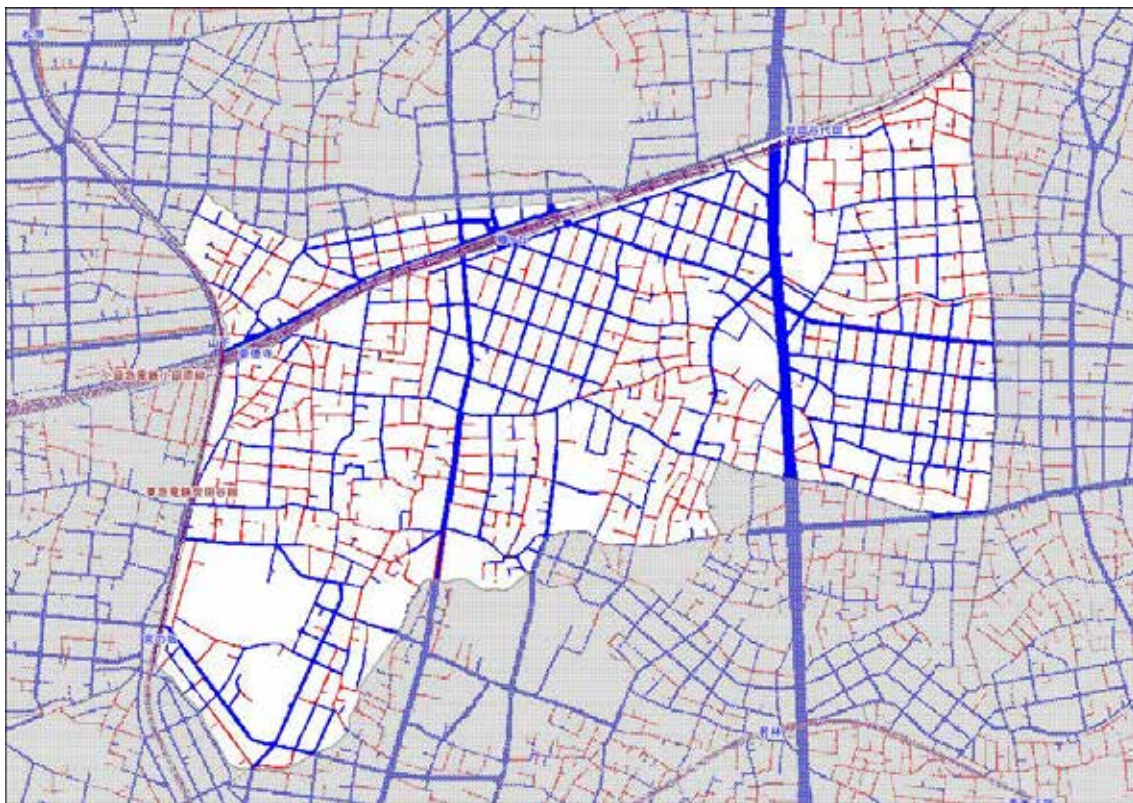
### 標高・急傾斜地・土砂災害危険箇所



## (2)社会特性

人口	28,417 人	細街路率	41.0 %	
世帯数	16,328 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	129.7 棟/Km <sup>2</sup>	
1世帯あたり	1.74 人	耐火率(建築面積ベース)	51.3 %	
若年層数(15才未満)	2,822 人	土地利用(宅地)	72.2 %	
若年層率(15才未満)	9.9 %	土地利用(宅地以外)	27.8 %	
高齢者数(65才以上)	5,750 人	鉄道駅	小田急小田原線世田谷代田駅 梅ヶ丘駅 豪徳寺駅 東急世田谷線山下駅	
高齢者率(65才以上)	20.2 %			
昼間の人口	21,139 人	産業	商業	82.7 %
夜間の人口	27,744 人		工業	17.1 %
昼夜間人口比	0.76 -		農業	0.1 %
町会・自治会数	6 -			

### 道路・公共交通機関

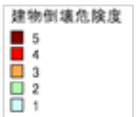
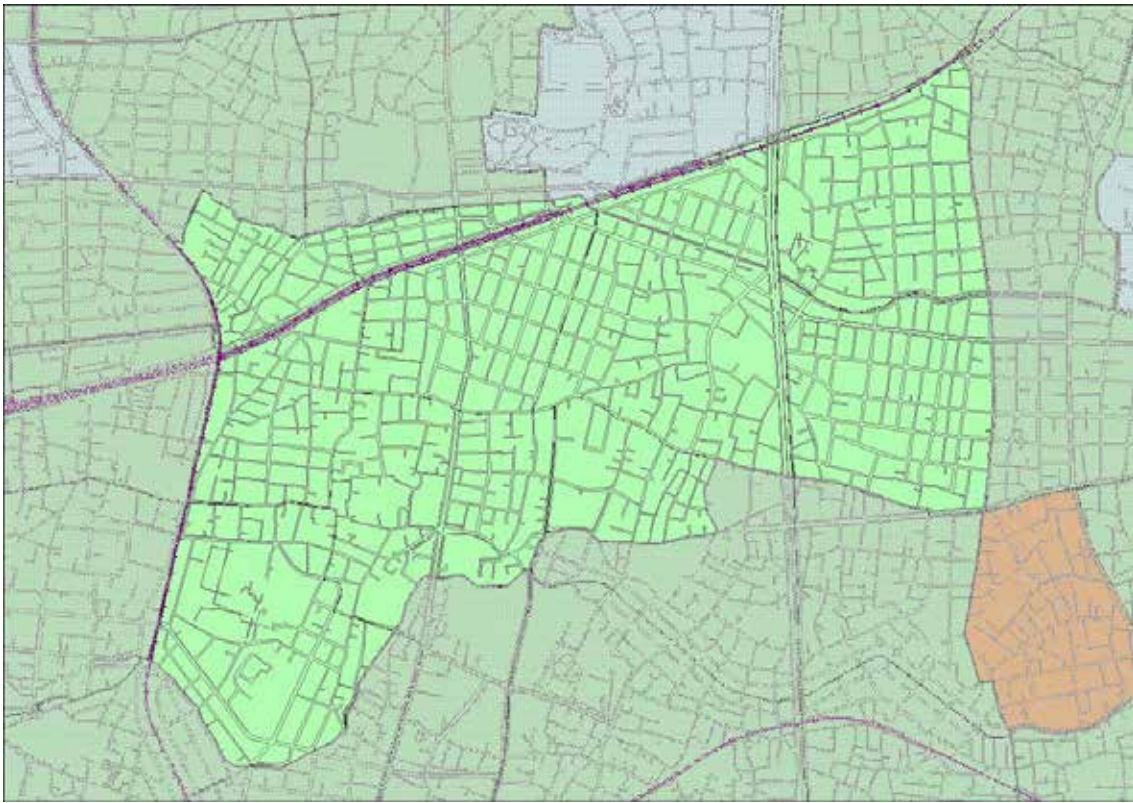




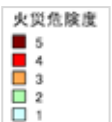
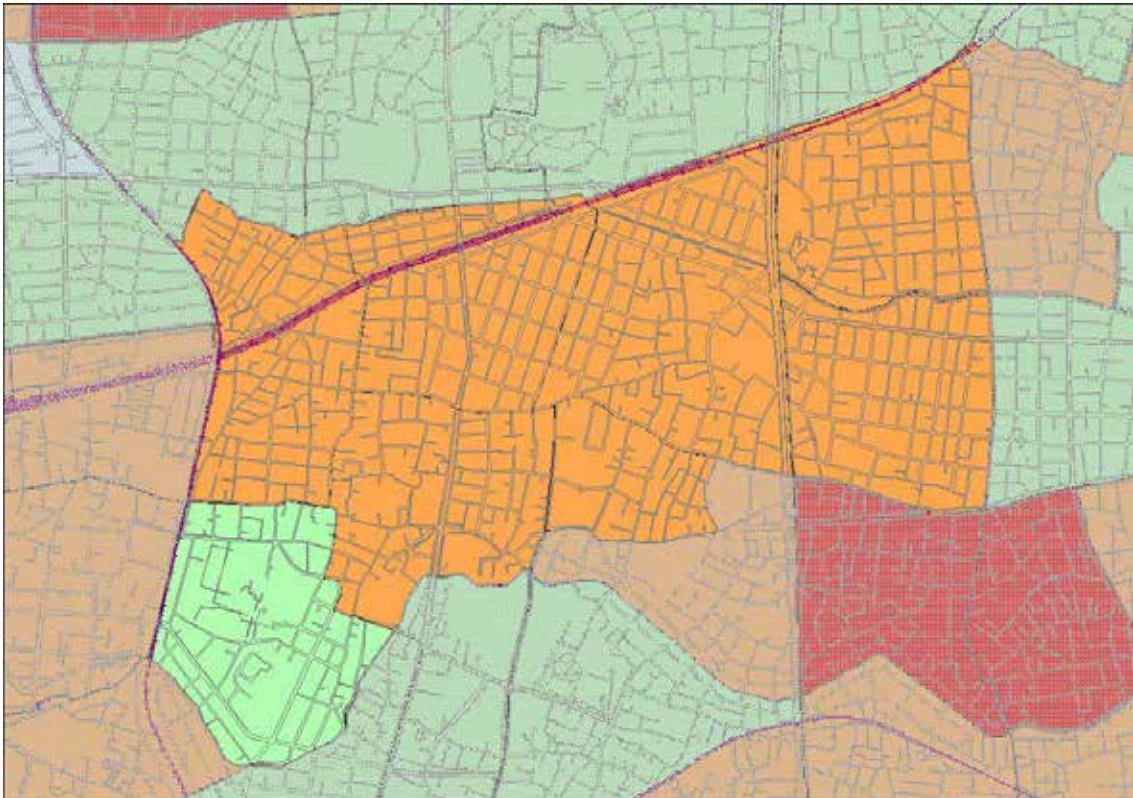
- | 用途         |            |
|------------|------------|
| 官公庁施設      | 官公庁施設      |
| 教育文化施設     | 教育文化施設     |
| 厚生医療施設     | 厚生医療施設     |
| 福祉施設       | 福祉施設       |
| 多世帯建物      | 多世帯建物      |
| 専用商業施設     | 専用商業施設     |
| 住居用建物      | 住居用建物      |
| 複合商業施設     | 複合商業施設     |
| 2式-1号-興行施設 | 2式-1号-興行施設 |
| 独立住宅       | 独立住宅       |
| 集合住宅       | 集合住宅       |
| 専用工場       | 専用工場       |
| 住居用工場      | 住居用工場      |
| 産業機械等施設    | 産業機械等施設    |
| 農林漁業施設     | 農林漁業施設     |
| 屋外利用地-遊憩建物 | 屋外利用地-遊憩建物 |
| その他        | その他        |
| 公園-運動場等    | 公園-運動場等    |
| 水利用地等      | 水利用地等      |
| 鉄道-港湾等     | 鉄道-港湾等     |
| 埋          | 埋          |
| 敷地         | 敷地         |
| 水田-河川-水路   | 水田-河川-水路   |
| 雑草         | 雑草         |
| 森林         | 森林         |

### (3)地域危険度

#### 建物倒壊危険度



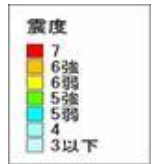
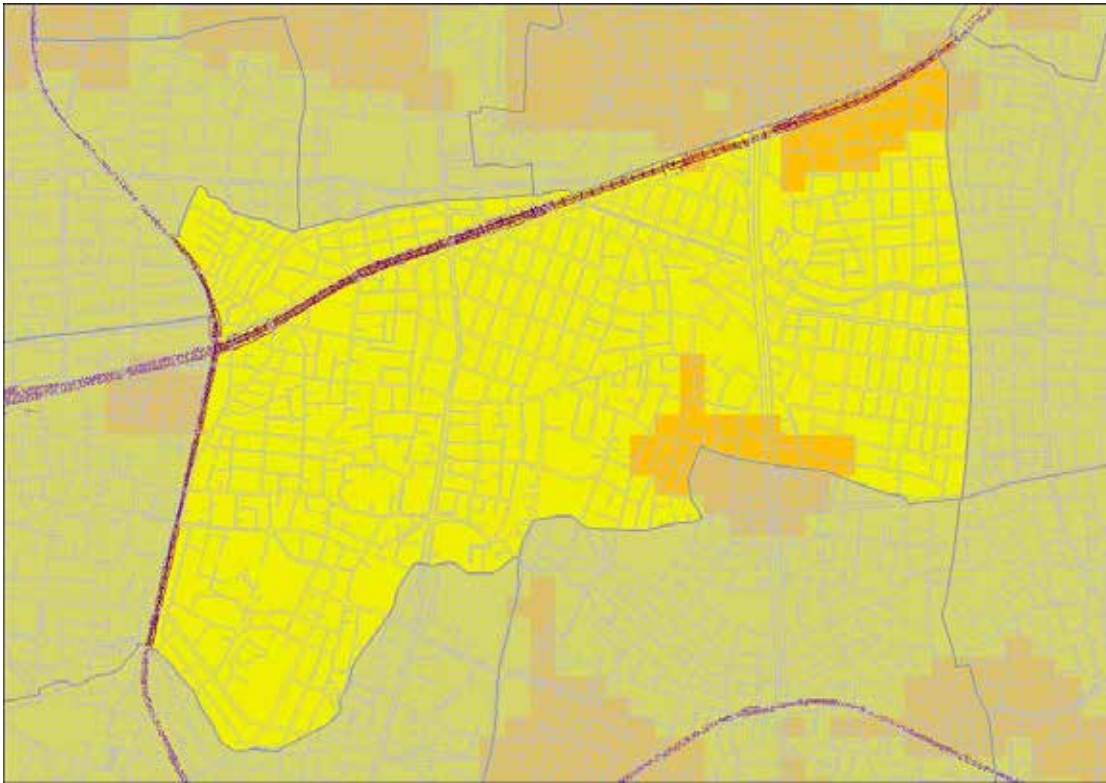
#### 火災危険度



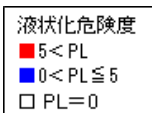
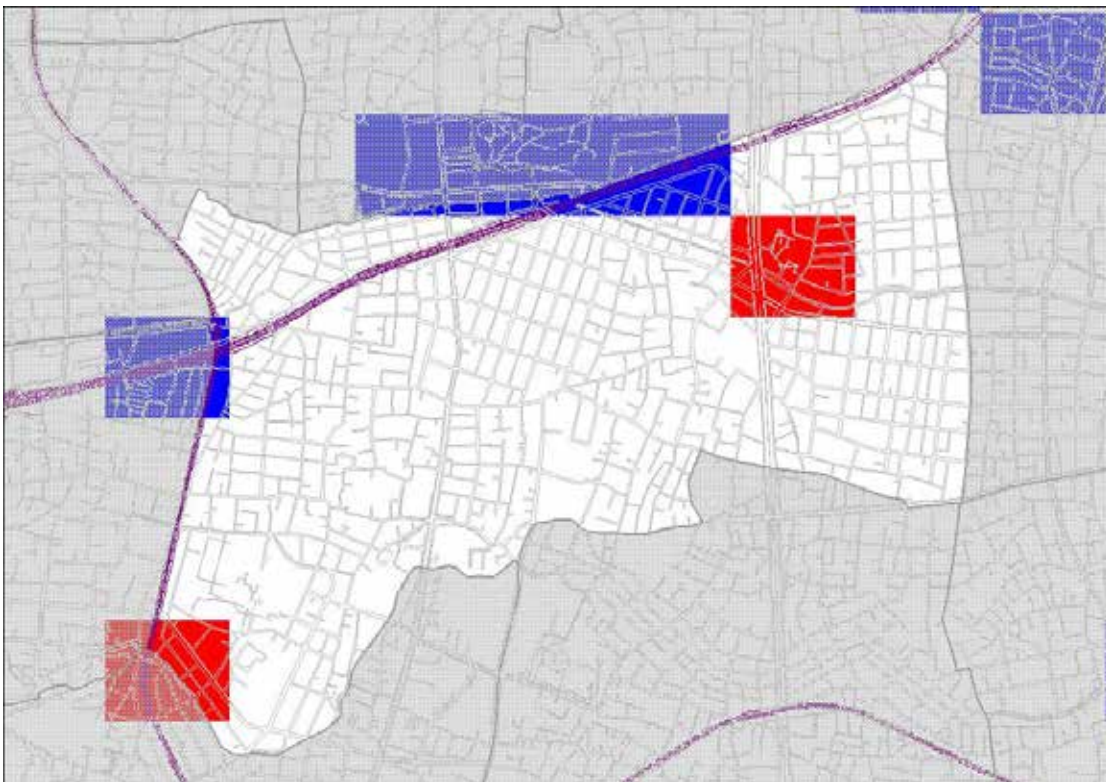
#### (4)被害想定

全壊棟数	108 棟	死者	21 人
半壊棟数	540 棟	負傷者	241 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	825 棟	うち重傷者	44 人

#### 震度分布

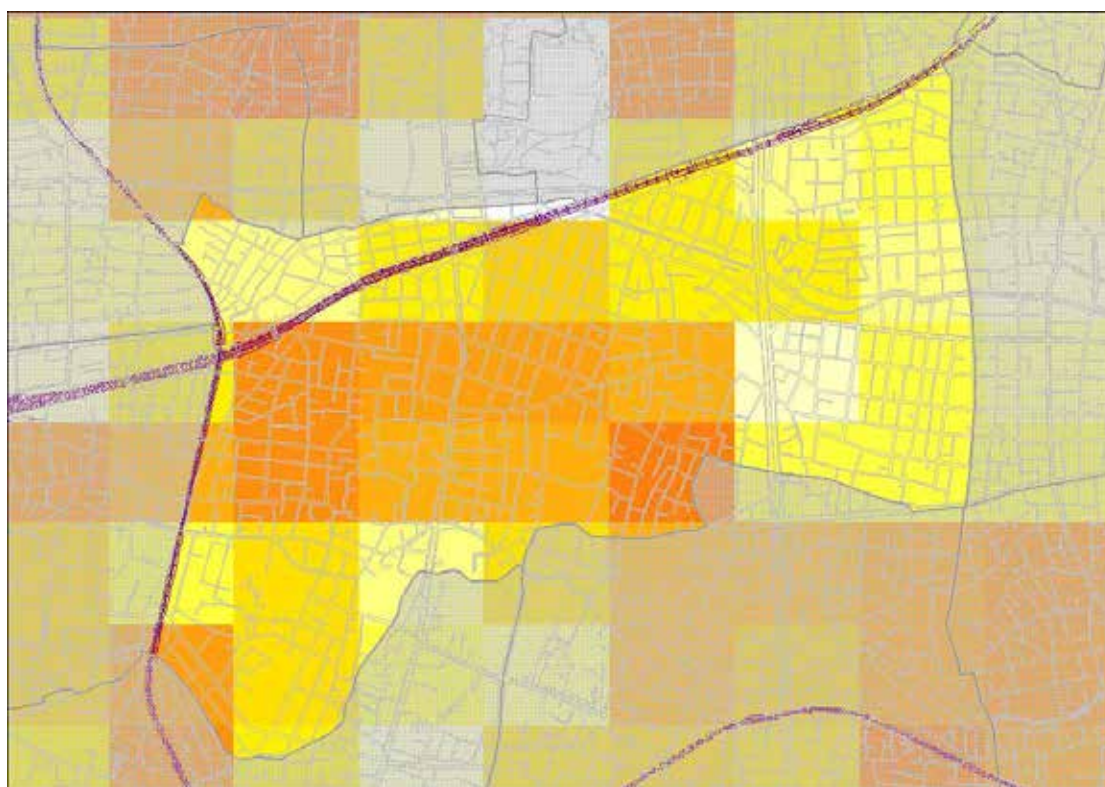


#### 液状化分布



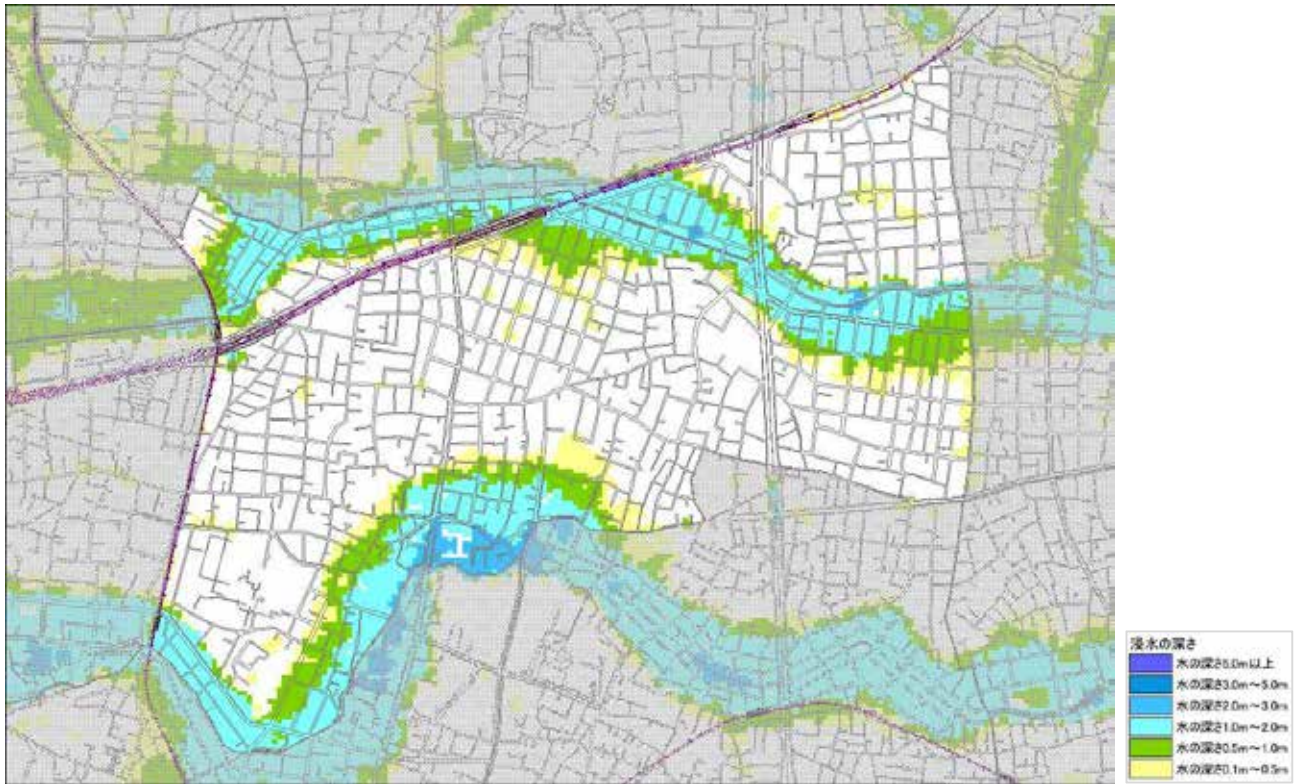
# (4)被害想定

## 被害棟数分布

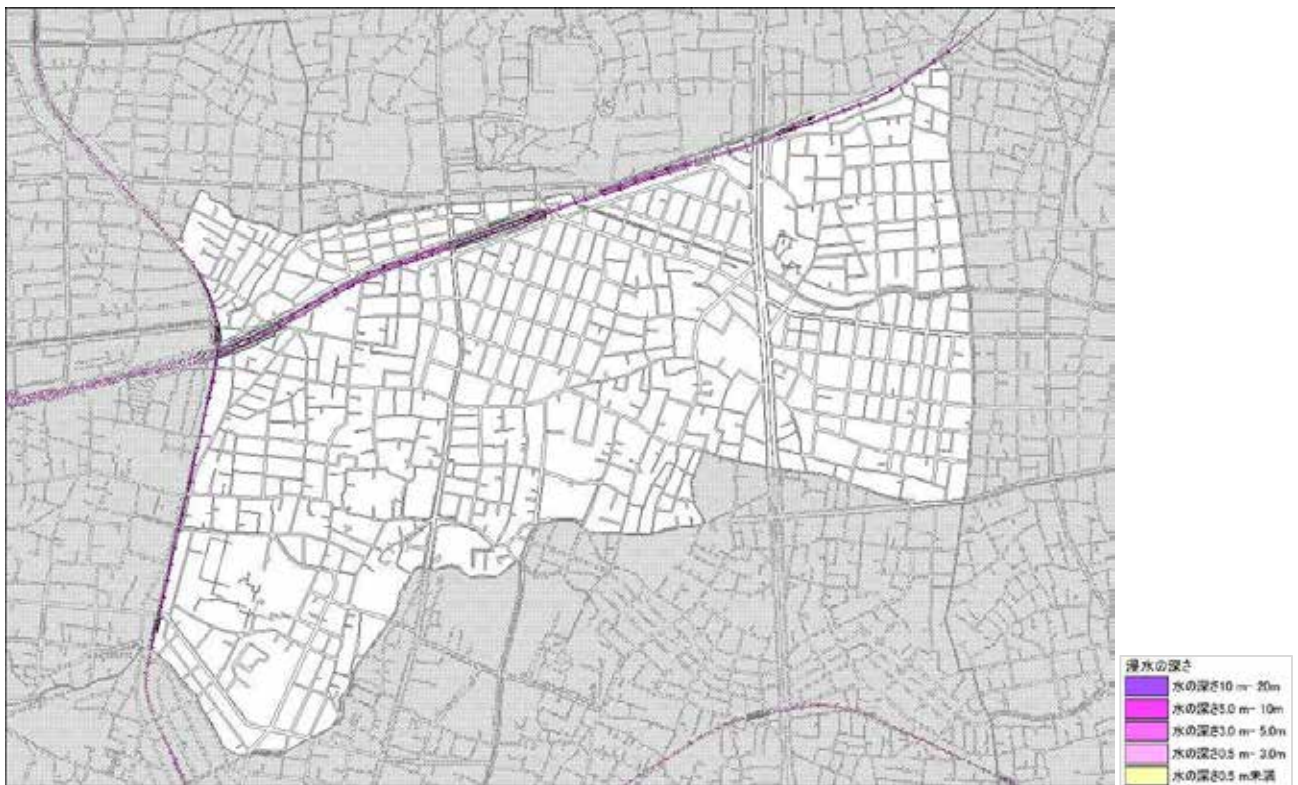


#### (4) 被害想定

##### 浸水想定（内水氾濫・中小河川洪水版）



##### 浸水想定（多摩川洪水版）



## (5)防災資源一覧

広域避難場所	国士舘大学一帯 羽根木公園一帯 駒場地区			
一時集合所	梅丘まちづくりセンター 梅丘とちのき公園 国士舘大学地域交流文化センター前 豪徳寺1丁目オリーブ公園 世田谷城址公園 善性寺 羽根木公園 代田広場 代田南児童館(地区会館) 横広場 円乗院前			
指定避難所	山崎小学校 城山小学校 世田谷中学校 仮称世田谷区立花見堂複合施設 令和3年11月～予定(仮称世田谷区立花見堂複合施設工事期間は代田小学校、代沢小学校)			
予備避難所				
母子避難所				
福祉避難所(高齢者)	アライブ世田谷代田			
福祉避難所(障害者)	すまいる梅丘			
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所		
水害時避難所(第2次)				
医療救護所				
東京都災害拠点病院				
東京都災害拠点連携病院				
緊急医療救護所				
一時滞在施設				
帰宅支援ステーション		帰宅困難者支援施設		ヶ所
ボランティアマッチングセンター	国士舘大学			
マンホールトイレ	4 ヶ所	防災無線塔	6 ヶ所	緑地 ヶ所
輸送拠点				
給水拠点				
広域用防災倉庫	小田急上部広域用防災倉庫			
土のうステーション	北沢川緑道			
警察署・交番	宮前橋交番			
消防署・出張所				



## 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施				消火資機材の配備	
		実施している	実施していない	会議名	(実施回数 年間)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ	
										数量	場所
梅丘1丁目町会	18	○		町会役員会	11	○		○		1	梅丘まちづくりセンター
梅丘2・3丁目町会	20	○		町会役員会	4	○		○		2	とちの木公園倉庫・二丁目倉庫
豪徳寺1丁目町会	17	○		豪徳寺1丁目町会 防災担当会議	3	○		○		3	豪徳寺1丁目町会 防災倉庫 豪徳寺商店街 豪徳寺1丁目内給水栓そば
豪徳寺一丁目山下自治会	20	○		防災会議	5	○		○		2	消火栓近くに設置
豪徳寺二丁目町会	17	○		豪徳寺二丁目町会 防災会議	3	○		○		1	二丁目町会防災倉庫
代田自治会		○		避難所運営会議	4	○		○		2	代田自治会倉庫

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施					
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所
梅丘1丁目町会							○		1	梅丘まちづくりセンター	1	梅丘まちづくりセンター
梅丘2・3丁目町会	1	とちの木公園倉庫	20	とちの木公園倉庫・防災担当者宅			○		1	とちの木公園		
豪徳寺1丁目町会	2	豪徳寺1丁目町会防災倉庫					○		2	世田谷中、オリーブ公園	2	アミカールホール
豪徳寺一丁目山下自治会	1	山下自治会倉庫					○		5	世田谷中学、自治会内、消防署		
豪徳寺二丁目町会	1	二丁目町会防災倉庫	27	二丁目町会	防火水槽x4基		○		1	城址公園	1	宮坂区民センター
代田自治会	1	代田自治会倉庫					○		1	花見堂小学校	1	代田南地区会館

団体名	防災訓練等の実施		防災マップ				防災マップ							防災士等の数				
	その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	
	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓					その他
梅丘1丁目町会			○				○	○	○	○	○		○		1		1	
梅丘2・3丁目町会						○									1		1	
豪徳寺1丁目町会			○				○	○	○	○	○	○	○			○	3	
豪徳寺一丁目山下自治会			○				○		○	○	○	○			3			
豪徳寺二丁目町会						○										○		○
代田自治会	スタンド パイプ操作 作法訓練	円乗院 前				○										○		○

団体名	災害時連携・協定 (区を除く)				避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保		
	他 団体との 連携	協定 締結	特 になし	連携先 ・内容	協定先 ・内容	締結 している	検 討中 である	予 定は ない	日 頃か らの 見守 り活 動	避 難行 動要 支援 者体 験	そ の 他	特 に実 施し てい ない	簡 易無 線	連 絡網 の 作 成・ 整備
梅丘1丁目町会			○			○			○				○	
梅丘2・3丁目町会		○				○			○				○	
豪徳寺1丁目町会			○			○			○	新避難行動 要支援者 に対して毎年 面談してい る。			○	
豪徳寺一丁目山下 自治会		○ (手続中)				○			○				○	○
豪徳寺二丁目町会			○			○			○				○	
代田自治会			○			○			○					

団体名	防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る資機 材の配備					救出救助に係る資機材の配備									
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ
梅丘1丁目町会			○			○	1			1	1	20		1	1	1	2	1	1
梅丘2・3丁目町会				○		○				2	2	20	2	2	4		2		
豪徳寺1丁目町会			○			○	1		1	1	2	20	1		2		2	3	1
豪徳寺一丁目山下 自治会			○			○	1			3	2		1						
豪徳寺二丁目町会				○		○	1	1		3	5	20	1	2	2	1	2	1	
代田自治会				○		○	1	1	1	12	6	68	1						

団体名	救出救助に係る資機材の配備			食糧等の備蓄							
	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類
梅丘1丁目町会		レスキューセット メガホン5	梅丘まちづくりセンター倉庫		○		3000				
梅丘2・3丁目町会	2		梅丘2・3丁目町会倉庫 (とちの木公園3丁目・2丁目倉庫)		○		300				
豪徳寺1丁目町会		大テントx2 小テントx2 ブルーシートx20 車いすx4	防災倉庫(オリーブ公園) アミカーレホール床下		○	100	100		500	300	
豪徳寺一丁目山下自治会		テント1張り 車いす	山下自治会倉庫		○		500	48	500		
豪徳寺二丁目町会			豪徳寺二丁目防災倉庫		○	2000	100		200		
代田自治会			代田自治会倉庫		○						

団体名	食糧等の備蓄								
	カセット コンロ	災害 その他 食料	非常用 トイレ	照明	発電機	給水 タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先
梅丘1丁目町会								梅丘まちづくり センター倉庫	梅丘1丁目町会会員
梅丘2・3丁目町会	2			2				梅丘2・3丁目町 会倉庫(とちの木 公園3丁目・2丁 目倉庫)	梅丘2・3丁目町会会員
豪徳寺1丁目町会	2		100	10	1		毛布x10 カセットストーブx5 LPガスボンベx1 大なべx1	豪徳寺1丁目町 会防災倉庫	豪徳寺1丁目町会管内 の町会員
豪徳寺一丁目山下 自治会	5		5	5			カセットストーブ、トイレセット5 袋250	山下自治会倉庫	山下自治会会員
豪徳寺二丁目町会	2			2	2	100		町会防災倉庫	二丁目町会管轄住民
代田自治会			200	30		600	クラッカー 152缶、パン缶 240個、ポータブルトイレ 10 個、かまどセット 大1、小1、メガ ホン大 18、サバイバルブラン ケット 92、マスク 250、タオ ル 100、手袋 91	代田自治会倉庫	代田自治会管轄住民

団体名	その他の防災活動
梅丘1丁目町会	梅丘地区防災訓練、避難所運営訓練(山崎小)への参加。 区や国土舘大学が主催する防災イベント等に積極的に参加している。
梅丘2・3丁目町会	
豪徳寺1丁目町会	商店街中央にある町内商店街共用の防災拠点において随時実施。 町会員のみでなく一般の方々にも参加頂いて宮坂消防署主催で町会協力のもと実施年5~6回。
豪徳寺一丁目山下 自治会	
豪徳寺二丁目町会	当地に適応した防災訓練を毎年春に町会主催にて行っています。今年度は我々にも出来る初期消火訓練を重点的にし、避難所訓練に於いても必要な簡易トイレの使用方の講習を行う予定です。
代田自治会	

### 3 梅丘地区の課題と取り組み

#### 課題1 情報収集・伝達

##### ■取り組むべき課題

- ・情報伝達(提供)の手段
- ・避難後の情報収集の手段

##### ■課題に対する意見等

- ・情報として何を収集し、何を伝えるのか。また情報の第一報は、地域の誰に伝える仕組みになっているのか。基本的なことを整理する必要がある。
- ・避難所へ行かず自宅に避難している方への情報伝達の方法を考える必要がある。
- ・代田地域では、他の地区よりも管轄地域が広く、環状7号線をまたがっているため、全域への情報伝達が困難である。
- ・代田地域では、他の地区のような大きな商店街がないため、他の地区のように商店街が情報伝達拠点にならない。
- ・代田自治会では、山崎小学校と代沢小学校・代田小学校(仮称世田谷区立花見堂複合施設工事期間(~令和3年10月末予定)完成後は山崎小学校と仮称世田谷区立花見堂複合施設)の避難所に関わらなければならず、情報伝達等にも不安を感じる。
- ・訓練に参加する住民が毎回決まった人になってしまっているので、参加した人がいかにまわりの人間に伝達するかが大切になってくる。

##### ■各団体ですでに取り組んでいること

- ・平時から取り組んでいる高齢者見守りの活動は、災害時の安否情報等の収集に大いに役立つと考える。
- ・自治会役員でトランシーバーを所持し、訓練を兼ね、地域行事等で実践している。
- ・商店街の空き店舗を活用し、まちかど防災拠点としている。スタンドパイプや救命道具等を備えた。災害時は、情報拠点としても機能させたい。

##### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①防災情報を町会・区の掲示板を活用し、伝達する。
- ②情報・物資の伝達方法の具体的な手段を検討する。

##### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・商店街の駅前に防災情報の掲示板を設置できないか。そこで小さな情報でも集約し、周知できると良い。
- ・福祉施設や都営住宅(高齢世帯が多い)、コンビニ等と連携し、情報の共有化を図

れると良い。

- ・災害時には、町会役員が拡声器を持って地域を回り、情報伝達と収集に努める。
- ・災害時に商店街の無線の使用を検討する。
- ・避難所運営本部組織の中に、地域を回って情報を伝える班の設置を検討する。
- ・回覧板を見ない人もいるため、インターネットやスマートフォンのアプリを利用し、情報発信するのもひとつの手である。
- ・中高生は、情報発信等が得意であるので、今後はそれを存分に活用して情報伝達を行う。
- ・仮称世田谷区立花見堂複合施設の工事期間中も、避難所運営委員会にて仮称世田谷区立花見堂複合施設での避難所運営の検討を行う。

## 課題2 安否確認

### ■取り組むべき課題

- ・福祉施設利用者の安全確保(複数施設が近接している)
- ・独居高齢者の救助・支援

### ■課題に対する意見等

- ・統一的な安否確認の方法をつくるべき。一人世帯の家に何回も確認に回るのは、迷惑にもつながる。既に安否確認が済んでいることを示す手段(サイン・表示のようなもの)を検討するべき。
- ・避難行動要支援者の安否確認では、プライバシーの問題がある。ある程度の個人情報把握をしていないと、発生時にも迅速に対応できない。できる範囲で行政に情報開示をお願いしたい。
- ・最近増えているシェアハウスには、どんな人が住んでいるのかわからない。そうした方々の安否確認は不可能に近い。
- ・重要なことは、まず近所・近隣の方の安否確認からが基本ではないか。
- ・高齢者や障害者、子育てママの方等との安否の情報共有はなかなか難しい。
- ・高齢者以外の方で支援が必要と思われる方の情報が入らないので、実際の取り組みが出来ない。
- ・避難行動要支援者協定により町会未加入者の名簿を渡されるのだが、そのような方の支援をどう考えるか検討する必要がある。
- ・安否確認の役割を担っている町会では、一部の人に役割が集中している。役割を担っているのは高齢者であり、助けるよりも助けられる側の存在である。
- ・町会費を払っている世帯は、集金の際等に住人の把握が可能であるが、町会に加入していない住民や、マンション等の集合住宅は、住民1人ひとりの把握が難しい。マンション等は民生委員が一軒一軒回るほかないのであろうか？
- ・昔ながらの家は、住民が把握出来ているが、新しく引っ越してきた住人は、把握しきれていない。

- ・避難行動要支援者に登録している方は良いが、登録をしていない方や、登録する必要があるのに登録を拒絶している方もいるので、そのような人たちの被災時の安全確保をどうするか。
- ・小さな赤ちゃんが居る家庭で、そのほかにも小さいお子さんが居る家庭等は、親の負担が大きく、被災時の避難に困難をきたす。また、子どもだけしか家に居ない時間帯に災害が起きたときのために、そのような家庭の家族構成を理解している必要がある。
- ・子どもが新BOPに加入していると家庭状況を把握しやすい。

#### ■各団体ですでに取り組んでいること

- ・福祉施設(区立すまいる梅丘)が町会に加入してくれたことで、日頃の繋がりができた。「繋がる」ことは、安否確認の上で大切なキーワードである。
- ・避難行動要支援者1人につき複数の方で担当している。
- ・新たに避難行動要支援者の対象となった方を訪問している。
- ・班長が自分の班内の避難行動要支援者を把握し、お宅訪問を実施している。

#### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①避難行動要支援者協定に基づいた取組みを進めていく。
- ②災害発生時の安否確認の方法について、担当やエリアなどを含めた具体的な取り決めや運用を検討する。

#### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・高齢者のひとり暮らしの方々への対応は、非常に難しい。今後も話し合いの場をもっていきたい。
- ・最終的にはやはり地域のつながりが大切になってくる。顔の見える関係を築いていきたい。

### 課題3 初期消火

#### ■取り組むべき課題

- ・消火手段の確認
- ・スタンドパイプ訓練の実施

#### ■課題に対する意見等

- ・街路消火器の増設と防災マップへ設置場所の表示を行政にお願いしたい。
- ・大規模な防災訓練(地区防災訓練等)では、水でなく、粉末消火剤を使って消火器訓練を行ってほしい。
- ・住民は、木密地域で火が出たら危険であることは認識している。スタンドパイプが果たして有効なのかという声がある。消火器が有効ではないかと考える。

- ・バケツリレーも有効ではないか。共助の士気も上がる。
- ・代田3丁目の住民は、わざわざ環状7号線を渡って訓練に参加しないので、スタンドパイプ等の消火器具の使い方がわからないままになってしまう。訓練参加をどのように呼びかけていくかを考える必要がある。
- ・倉庫の鍵は役員しか所持していないため、いざというときに、役員が倉庫の鍵を開けるほかない。

#### ■各団体ですでに取り組んでいること

- ・世田谷中学校にて防災訓練・放水訓練を行っており、中学生にも積極的に訓練に参加するように呼びかけている。
- ・スタンドパイプは消火栓の所に鍵を付けずに置いている。
- ・防災訓練等を全町会で実施している。

#### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①消火器やスタンドパイプ等の消火器具を充実させ、設置場所や取り扱い方法を周知していく。
- ②訓練等において、消火器等の操作に慣れた人材を養成する。

#### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・火災を起こさないようにしたい。まだ小火の間に消火するには、スタンドパイプより消火器である。スタンドパイプは組み立てに時間がかかるので、その間に火が回ってしまう。性能の良い消火器をもっと普及させたい。
- ・消火器の取扱い訓練を町会以外の方とも行いたい。
- ・スタンドパイプはあるが、倉庫にしまっていて鍵がかかっているなので、迅速な対応が難しい。数字で合わせるワイヤー錠に変更したい。
- ・初期消火に必要な物品等は、地域でどの場所にあるかをしっかり把握したい。
- ・自治会以外で所持している防災物品等も確認できると良い。

### 課題4 避難行動

#### ■取り組むべき課題

- ・避難ルート of 安全確保

#### ■課題に対する意見等

- ・「逃げない」という考え方もある。実際、逃げる場所がないからである。なので、「倒壊しない・火災が起きないまち」をつくるのが大事である。
- ・狭小な道路に囲まれている住宅も多く、避難ルートの確保が難しい。災害が起きたときにどのように避難するかは、状況に応じて判断するしかないのでは。
- ・避難せずに自宅で待機する方の検討も必要である。

- ・1階が駐車場になっているような住宅は地震の際の被害が心配。
- ・密集地が多くなってきているため、火事等が心配。
- ・車椅子の人は避難が困難。
- ・ブレーカーの落とし忘れが火事に繋がるが、ブレーカーが高い位置にあり高齢者等は手が届かない場合が多い。
- ・防犯パトロールは行っているが、防犯目線なので、土砂崩れ等の危険箇所を見極める視点ではパトロールを行えていない。
- ・防災に関することは、普段の生活の面では、不便なことが多いので、どうしても疎かになりがちである。

#### ■各団体ですでに取り組んでいること

- ・週1で防犯パトロールをしながら避難経路等のチェックを行っている。
- ・週1回4グループに分かれて、担当者が交替で地域をパトロールしている。

#### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①建物の耐震化・不燃化をさらに進め、在宅避難を推奨する。
- ②避難所に行くまでの経路の中で危険な場所がないかを日頃から確認する。

#### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・両隣に声をかけ、笛等を携帯して皆で助け合っていく。
- ・寝ているときは、近くにスニーカー等の靴を置いておく必要がある。
- ・懐中電灯は避難の際に使用するため、乾電池の予備も用意する必要がある。
- ・ブレーカーを落とす工夫として、地震を感知すると勝手にレバーが下がる装置を取り付ける。天窓用の棒を利用してブレーカーを落とす等の工夫をすることを呼びかける。
- ・小学校等の避難訓練での内容を子どもたちが学び、それを家庭に持ち帰り共有することで、情報を拡散出来る。
- ・消火器、スタンドパイプ等の設置箇所の一覧表(地図)の作成を検討する。推奨避難経路等も設定したい。

### 課題5 避難生活

#### ■取り組むべき課題

- ・避難所での生活規律の確保
- ・給水(飲み水)の確保
- ・トイレ(排泄手段)の確保
- ・避難所の衛生管理

#### ■課題に対する意見等

- ・マンホールトイレ専用の道路(一般は通行止めにする)を検討してほしい。
- ・災害時指定井戸の利用法や貯水量・水質等についての情報が乏しい。区でもっと積極的に情報提供してほしい。
- ・町会での備蓄に関して、行政には金銭補助をお願いしたい。
- ・避難用食糧の備蓄は、決して多くはないので、各自で備蓄してもらいたい。
- ・給水地点が遠いので、水の確保についてハード面から検討してほしい。
- ・避難所での生活ルールは出来ているが、地域の人たちに事前にどう伝えるかが課題である。
- ・避難所ではそもそも全住民が避難出来るだけのキャパシティは持ち合わせていない。
- ・避難所で生活している人、家で待機している人との情報格差が生まれる。
- ・熊本の震災でも食糧不足であるのに住民の多い東京で震災が起きたときの食糧問題が深刻化するの明白である。
- ・環状7号線の内側、外側でうまくまとまって避難生活を行っていくべき。
- ・避難所における感染症対策により、避難所に備蓄している消毒用アルコール、石鹸、体温計、マスク等の衛生用物品が不足すると予想される。

#### ■各団体ですでに取り組んでいること

- ・町会で、ペットボトルの飲料水や非常食を備蓄している。今後もっと増やしていく予定。
- ・トイレの不足が懸念されるので、様々な角度からトイレ増設の可能性を検討していく。
- ・避難所に来るときは手ぶらでは来ないように伝えている。(水、トイレットペーパー、食糧等)

#### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①避難所での運営ルール、生活ルールを事前に検討する。
- ②避難所(学校)内にマンホールトイレの整備を検討する。

#### ■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・大きいマンホールで使用できるマンホールトイレがあれば検討したい。
- ・家が無事なら家で避難生活をする。そのために最低1週間分の食糧の備蓄を呼びかける。
- ・避難所でのアレルギー問題がとても深刻なため、避難者カードでアレルギーの有無の項目が無かったら追加する。
- ・感染症対策を受け、避難所に来るときは、消毒用アルコール、石鹸、体温計、マスク等の衛生用品を各自で持参するよう伝える。

## 課題6 その他

### ■取り組むべき課題

- ・日頃からの防災意識の重要性
- ・町会と未加入者との連携

### ■課題に対する意見等

- ・防災塾に学校関係者(教員)の参加をぜひ呼びかけてほしい。
- ・24時間使用可能なAEDをコンビニ等に設置してほしい。公共施設等に置いてあるAEDは、時間外の使用ができず問題がある。
- ・小学校(避難所)が統廃合によって閉校し、大きな課題として、子どもたちの安全・安心を含めて、今後を考えていく必要がある。
- ・災害時のまちなかの炊き出し風景等を意識向上のために区の広報等にのせてほしい。(被災地の写真等)
- ・ペットのアレルギー問題が深刻である。また最近では犬猫以外の珍しいペットを飼っている家庭も増えてきたことも含め、ペットを避難所でどのように扱うか検討が必要である。
- ・赤ちゃんが居る家庭の避難は困難をきたすことから、世田谷区では進んでいる事業である「赤ちゃん訪問」等を利用してその際に防災を徹底する呼びかけ等を実施していくのも良い。
- ・感染症流行に伴い、避難所でのあり方が変わってきている。避難所の3密(密閉、密集、密接)を防ぐため、避難者間の間隔をあけることにより、収容人数の減少が見込まれる。また、避難所での感染リスクの増加も懸念され、住民一人一人の在宅避難への備えが重要になってくる。

### ■各団体ですでに取り組んでいること

- ・町会で車椅子を数台所有しているが、非常時にはリアカーの代わりにもなる。ベビーカー等も非常時の運搬手段として活用できるのでは。
- ・町会で、非常用のジャッキを確保した。人命救出等に役立つと考える。
- ・都営住宅の建替えで防火水槽とマンホールトイレ、避難スペースを設けてもらうよう申し入れをした。
- ・町会でリアカーを所有している。荷物の運搬の他に人を運ぶことにも利用出来る。

### ■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①自宅の耐震化や家具の転倒防止について周知していく。
- ②家庭での備蓄物品の推進をPRしていく。
- ③普段から地域のイベント等を通じて顔の見える関係を築く。

- ④AEDやスタンドパイプ等、防災に関する情報がさらに認知されるようツール等を検討し、情報発信していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・消防団とは日頃から防災訓練や町会行事を一緒に行っている。消防団と町会の更なる連携を図りたい。
- ・地域のイベントや祭り等は、人と人を繋ぎ、地域の関係性を高める機会として、重要である。地域を巻き込む「場づくり」にもっと力を入れていきたい。
- ・地域のイベントにPTAをもっと巻き込む必要がある。そのためには、学校からPTAに発信していく必要がある。
- ・町会の加入率を上げる必要がある。
- ・人が集まるベビー向け、子供向けの普通救命講習や、予防接種、中学生の進路説明会等で、防災に関する説明を抱き合わせる等してうまく情報を周知させていきたい。
- ・各団体の防災訓練時に、“人が多く集まる避難所は、感染が拡大するリスクが高く、必ずしも安全とは限らない。災害時に自宅での居住継続が可能な場合は、在宅避難をしよう。そのために日ごろからの備えが大切である。”のように、在宅避難につなげていくため、近隣住民に呼びかける。